

第627回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1. 復興公営住宅整備事業（高萩団地）

2011年3月11日に発生した東日本大震災により福島県では多数の死者、行方不明者そして住宅、生産設備の損壊、流出、浸水、原発事故による放射線の被害など未曾有の被害を受けました。特に相双地区といわき地区では、津波による住宅被害が甚大で、震災直後の福島県災害対策本部の発表によると、住家被害は全壊、半壊、一部損壊の合計が138,160棟に上り、県内の全壊棟数は15,897棟であったが、相双及びいわき両地区の合計が12,458棟と県内全壊棟数の78.4%を占めていました。県では、原子力災害により避難を余儀なくされている方々の居住の安定を確保するため、復興公営住宅を整備していますが、高萩団地では現在造成工事、建築工事を行っており、平成28年度後半までに約80戸を建設することとしています。高萩団地では、共有の庭として使える「コモン」を中心に住宅を配置し、入居者同士のコミュニティの維持・形成を図る拠点としています。

（視察キーワード：東日本大震災復興、地域コミュニティ等）

..... いわき市小川町



2. 小名浜港東港地区整備事業

福島県の海の玄関口である重要港湾小名浜港は、東京と仙台のほぼ中間に位置しています。

小名浜港は、昭和31年に国際貿易港として開港し、昭和39年の新産業都市「常磐・郡山地区」指定などを弾みに、国際貿易港として着実な発展を遂げてきました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、港湾施設は甚大な被害を受けましたが、平成26年3月までに物流機能を担う主要な岸壁の災害復旧工事が全て完了し、取扱貨物量については震災前を上回る水準にまで回復しています。また、平成23年5月には「国際バルク戦略港湾（石炭部門）」に選定、平成25年12月には全国初となる「特定貨物輸入拠点港湾」に指定されました。

一方、県内屈指の観光拠点である1・2号ふ頭地区の「アクアマリンパーク」など、海の自然や文化とふれ合うことができる賑わい空間の整備も行われており、恵まれた立地条件のなかで、大交流時代を支える世界とのネットワーク拠点としてさらなる発展を目指します。

近年、石炭などの貨物取扱量の増加とこれらを輸送する船舶の大型化が進む中、小名浜港では、大型船が接岸できる水深の深い岸壁が不足していることから、積載量を減らしての入港や、船舶の沖待ち（滞船）が発生し、とても非効率な状況にあります。このような状況を解消し、物流コストの削減や産業の国際競争力強化を図るため、東港地区の整備を推進しています。

（視察キーワード：東日本大震災、国際物流拠点、ストック効果等）

..... いわき市小名浜



3. 復興まちづくり事業（薄磯地区）

いわき市薄磯地区は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の津波により、87%の家屋が全壊し、67%が流出、市内で最も多くの103名の方が亡くなるなど、市街地全域で甚大な被害を受けました。当地区では、地域住民の意向を踏まえ、総合的な防災力の高いまちづくりを目指し、海岸堤防の嵩上げや防災緑地、避難路となる道路の整備、土地区画整理事業による土地利用の再編などの「ハード整備」を図るとともに、防災訓練や防災教育及びハザードマップの作成などの「ソフト対策」を組み合わせた「多重防衛による復興まちづくり」を進めています。

現在、避難者の一日も早い生活再建に向けて、UR都市機構に業務委託し、設計・工事をCM方式により一括発注するなど、各種事業を一体的かつ効率的に進めており、平成29年度の完了を予定しています。

（視察キーワード：東日本大震災、復興まちづくり等）

..... いわき市平薄磯

